

地域活性化プラン一覧（令和元年度策定）

- 1 【位置図】地域活性化プラン策定支援の状況について
- 2 地域活性化プラン一覧
- 3 地域活性化プランに関する問合せ先

【位置図】地域活性化プラン策定支援の状況について

R元 プラン策定数 50プラン

- <桑名市>
- ・有限会社 マルマ工務店：産地の強化
 - ・株式会社 渡辺フーズ：産地の強化
 - ・長島町園芸組合青年部：産地の強化
 - ・志知地域資源保全会：集落営農の強化
- <いなべ市>
- ・いなべ市北勢町南中津原自治会：集落営農の強化
 - ・尾崎営農組合：地域コミュニティの維持
- <木曾岬町>
- ・JAみえきた 木曾岬トマト部会：産地の強化
 - ・株式会社 てしお夢ふぁーむ：産地の強化

- <四日市市>
- ・JAみえきた 四日市管内営農センター（なばな）：産地の強化
 - ・ニューファーマーズ倶楽部：産地の強化
 - ・農事組合法人 ハサマ共同製茶組合：農産物の付加価値化
 - ・よっかいちロクジカ仕事人：農産物の付加価値化
- <鈴鹿市>
- ・三日市酒つくり委員会：産地の強化
 - ・定五郎物語「みえのゆめ」生産者グループ：産地の強化
- <菟野町>
- ・菟野町みつばちプロジェクト：農産物の付加価値化
- <亀山市>
- ・関南部地区まちづくり協議会 久我自治会：集落営農の強化
 - ・刃法寺六〇会：集客交流
 - ・鹿伏兎山脈自然薯（零余子）の会：地域コミュニティの維持

- <伊賀市>
- ・上野南採種部会：産地の強化
 - ・三軒家農業生産組合：集落営農の強化
 - ・農事組合法人 大東営農組合：集落営農の強化
 - ・西喜農産株式会社：農産物の付加価値化
- <名張市>
- ・長坂地域資源保全プロジェクト：集客交流

- <津市>
- ・株式会社 JAアグリサポートだいち：産地の強化
 - ・津市養豚クラスター協議会：産地の強化
 - ・白山町採種部会：産地の強化
 - ・久居キャベツ・はくさい部会：産地の強化
 - ・Landing in Hakusan：集客交流
 - ・榊原の地域振興を考える会：集客交流
 - ・太郎生道里夢：地域コミュニティの維持
 - ・一般社団法人 一志パラサポート協会：障がい者雇用

- <紀北町>
- ・紀北町ニンニク栽培・加工グループ：産地の強化

- <松阪市>
- ・松阪エゴマ倶楽部：産地の強化
 - ・機殿営農組合：集落営農の強化
 - ・機殿下営農組合：集落営農の強化
 - ・朝見営農組合：集落営農の強化
 - ・漕代営農組合：集落営農の強化
 - ・伊勢寺営農組合：集落営農の強化
 - ・道の駅「茶倉駅」：直売所
- <大台町>
- ・長ヶ営農組合さとこい：集落営農の強化
- <多気町>
- ・兄国営農組合：集落営農の強化
 - ・多気町集落営農組織連絡協議会：集落営農の強化

- <熊野市>
- ・熊野・三ツ口山甘茶栽培研究会：新産地づくり
- <紀宝町>
- ・農事組合法人 飛雪の滝百姓塾：集落営農の強化

- <鳥羽市>
- ・株式会社 ファーム海女乃島：産地の強化
- <玉城町>
- ・玉城町水田農業担い手づくりの会：産地の強化
- <南伊勢町>
- ・河内の農地を守る会：産地の強化
- <鳥羽市・志摩市>
- ・JA伊勢 鳥羽志摩特別栽培米コシヒカリ部会：農産物の付加価値化
- <伊勢市・志摩市>
- ・JA伊勢 パラ部会：産地の強化
- <伊勢市・玉城町>
- ・JA伊勢 大豆生産者グループ：産地の強化



地域活性化プラン一覧（令和元年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期間
桑名	桑名市	有限会社 マル マ工務店	アスパラガス栽培作業の軽労化で生産拡大	土地改良事業によりパイプラインや排水施設が整備され、水田では盆前に出荷できる早場米や小麦、大豆、飼料用稲が生産されるほか、露地野菜としてなばな等、施設園芸としてトマト、花き、観葉植物の生産が盛んである。	<ul style="list-style-type: none"> ○よう壁を利用したアスパラガスの高うね栽培の試作実証 ○低コストなよう壁設営の設計・工法検討 ○JAと連携した地域農家への「高うね栽培」の技術情報提供 ○アスパラガス栽培者の組織化、地域の新しい特産品づくり 	アスパラガスの高うね栽培の面積拡大：20a 地域の新しい特産品づくり	R2.1
桑名	桑名市	株式会社 渡辺 フーズ	使用済みフレコンバック等の利用による野菜栽培の実証と拡大	木曾三川の下流に位置し、水利が有利な地域であったことから農業が盛んであり、基幹施設整備事業も進んだ地域である。 しかしながら、生産者の高齢化や厳寒期の労働環境の厳しさ、単収減少により、なばなの栽培面積が減少傾向にある。	<ul style="list-style-type: none"> ○使用済みフレコンバック等の袋を活用したナバナ、茎ブロッコリー等の袋栽培の実証 ○長島地区内での栽培拡大に向けた説明会など普及活動 	R2：3a R3：累計5a R4：累計10a	R2.2
桑名	桑名市	長島町園芸組合 青年部	長島トマト産業の振興	木曾三川の下流に位置し、水利が有利な地域であったことから農業が盛んであり、それを担う土地利用型担い手農家や施設園芸農家の育成が積極的に進められている地域である。施設園芸はトマト、花き等に代表され、県内でも有数の産地を形成するほか、露地野菜では、なばなの作付けが盛んで、作付面積・出荷量ともに県下1位の出荷規模である。 近年はトマトの単価下落や病害による農産物の損害など生産や経営環境の悪化、農業者の減少と新規就農者の不足に歯止めがかからないこと等への対応が課題となっている。	<ul style="list-style-type: none"> ○病害虫対策等の栽培技術向上 ○平均単収の向上 ○新品種の試作 ○新規就農者の受け入れ時におけるサポート体制の構築 	トマトの平均単収：17.5t/10a 青年部経営面積の拡大：20a増加 木曾岬トマト部会等他産地との交流、長島町園芸組合に対する提言：各1回/年	R2.3
桑名	桑名市	志知地域資源保全会	集落の景観と農地の維持管理に向けて ー雑草管理の省力化	温暖な気候を持ち平坦地の広がる水田地帯であり、農地の多くが区画整備事業により50a区画に整備されている。自治会員からなる本団体により、国の制度を活用した農地維持や資源向上活動、イノシシやシカ等の捕獲、アジサイや彼岸花の植栽による景観美化活動に取り組んでいる。 地域の農地は主に少数の大規模な担い手により維持されているが、担い手の高齢化や地権者の集落農地や営農への関心の希薄化から、農地の継続的な維持が難しくなっている。	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の農地維持および資源向上活動の継続 ○イノシシやシカ等の捕獲活動 ○花木類植栽による景観美化活動の継続 ○ノシバの植付による畦畔雑草管理の省力化 	ノシバによる雑草管理省力化技術の実証 実証圃の設置：2か所 集落の農業組織と連携した集落農地のあり方の検討	R2.3

地域活性化プラン一覧（令和元年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期
桑名	いなべ市	いなべ市北勢町 南中津原自治会	集落の景観と農地の維持管理に向けて ー雑草管理の省力化	北勢町の南東部に位置する中山間地域であり、農地は水田が中心である。一部は区画整理されているが、多くは傾斜地の畦畔率が20%を超える条件不利地にある。中津の里を守る会による農地の多面的機能を守る取組や、自治会による集落ぐるみの獣害対策に取り組んでいる。 担い手の高齢化のほか、小区画かつ法面や畦畔が広く雑草管理の負担が大きい耕作条件不利地を多く抱え、農地の継続的な管理が難しくなっている。また、水稲への獣被害が多発し、対策を実施しているものの、雑草管理が不十分なこともあり、効果が発揮されていない。	○集落の農地が守られる仕組みづくり ○ノシバの植付による畦畔雑草管理の省力化 ○集落ぐるみの獣害対策	ノシバによる雑草管理省力化技術の実証 実証圃の設置：1か所 集落の農業組織と連携した集落農地のあり方の検討	R2.3
桑名	いなべ市	尾崎営農組合	尾崎地区の水田維持による、いなべ市藤原町尾崎地区の活性化	本地区は、三重の天然記念物に指定されている篠立の風穴や飲用可能な湧き水があるなど、昔ながらの豊かな自然が残っている。 また、農業については、水田において地域輪作体系が確立している。シカやイノシシ、サルによる水田作物の被害が多いため、水田の周辺に獣害防止柵を設置している。	○水田の維持管理 ○地域企業や関係機関との連携による獣害対策	畦草管理および水路の補修 獣害防止柵の点検・強化：2,000m/年 地域企業との連携：2回/年 獣害対策研修会の開催：1回/年	R元.6
桑名	木曾岬町	JAみえきた 木曾岬トマト部会	トマト産地の振興	平坦地に位置し基幹施設整備事業が進んでおり、土地利用型農業やトマト・観葉植物などの施設園芸が盛んな地域である。特にトマトは経営体質強化のため、国の補助事業等を活用した施設栽培環境の改善や規模拡大が進められた。出荷は大型選果機を利用し、10月から翌7月まで共同選果による共販に取り組んでいる。 一方で、施設栽培、共同選果ともに従業員の引退等に伴う労働力不足が生じており、人材確保と育成が喫緊の課題となっている。また、JAや隣接産地との意見交換により産地統合を進めるなど、一層の産地力強化が求められている。	○商品の品質および生産の安定化 ○実需者ニーズに合った商品の創出と提供 ○農業経営体の安定化 ○産地力の強化	新品種および新資材の検討・試作 少量規格等の多様な商品の企画・提案 部会員全員のGAPへの取組推進 雇用側の課題整理による労務管理能力の向上 多様な人材の確保と育成 JAや隣接産地との意見交換	R2.3
桑名	木曾岬町	株式会社 てしお夢ふぁーむ	就労継続支援A型事務所 株式会社 てしお夢ふぁーむの農業生産活動に対する第3者認証取得への取組	木曾三川の下流に位置し、水利が有利な地域であったことから農業が盛んであり、基幹施設整備事業も進んだ地域である。大規模土地利用型農家や、トマトや観葉などの施設園芸農家の育成が積極的に進められている。 一方で農業者の高齢化や後継者不在による離農が進んでいるほか、小区画・不整形の農地が活用されておらず、この対応が課題となっている。	○小区画農地の借り上げと葉菜類の養液栽培の実施 ○農場ルールの明文化・共有などの雇用環境の整備によるノウフクJAS取得 ○地元JAや木曾岬町、県等と協力した農福連携の普及活動	雇用環境および生産環境の整備 ノウフクJASの取得 農場ルールの明文化・定着 パートナーとの意見交換による労働環境の改善 働きやすい職場づくり	R2.3

地域活性化プラン一覧（令和元年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期間
四日市	四日市市	JAみえきた 四日市管内営農センター（なばな）	JAみえきた 三泗管内『三重なばな』の発展と産地の振興	<p>当該地域の農地は伊勢湾に面する平坦地から鈴鹿山麓の中山間地まで広がり、水田での水稻、麦、大豆の生産やトマト、いちごなどの施設園芸、種々の露地野菜の栽培など多岐にわたる。県の特産野菜である「三重なばな」の作付けも実施されている。</p> <p>「三重なばな」の生産においては、生産者の高齢化のほか、早生品種の収穫期における開花や連作による土壌病害の発生による収量の低下が問題となっている。また、なばなとの輪作が可能な軽量野菜の品目が、通年の収益確保のため求められている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「三重なばな」の新規栽培者および後継者の確保、生産面積の維持 ○なばなの晩生品種の導入 ○連作障害の低減 ○モロヘイヤとの輪作体系の導入・普及 	<p>なばなの生産量向上：35t（地域計）</p> <p>なばな栽培の説明会、研修会の開催</p> <p>晩生品種の特色等の周知による晩生品種の作付割合の増加</p> <p>土壌病害の発生リスク診断の実施、高リスク圃場における現地指導によるリスク低減</p> <p>圃場調査による土壌病害発生状況の把握</p>	R2.3
四日市	四日市市	ニューファーマーズ倶楽部	BLOF農法による農産物生産に取り組む農業者グループの共同出荷に向けた計画	<p>当地域は製造業が盛んであることから兼業農家の割合が高い。トマトなどの施設園芸のほか、消費地近郊の産地として、キャベツ、はくさいをはじめとする多種多様な露地野菜が栽培されている。</p> <p>農産物の販売においては、量販店との契約販売や直売所を利用した直接販売が増加しており、販売先の確保や出荷体制の整備といった課題を抱えている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○農産物の共同の集出荷体制の整備 ○販売規模の拡大による新たな販売先の開拓 ○圃場の土壌分析・調査によるデータに基づいた施肥設計、土づくりの検討 ○農産物の栄養成分分析 ○有機農業に関する情報収集 	<p>団体の農産物のブランド化</p> <p>新規販売先開拓：2社</p> <p>農産物の栄養成分や土壌に関する分析データの、販売先への提供による販路拡大</p>	R2.3
四日市	四日市市	農事組合法人ハサマ共同製茶組合	“Kyoukan Black Tea”で挟間（ハサマ）地域に共感を	<p>本地域において、谷底平地部では豊富な湧き水と河川水を利用して水田作が行われており、主食用米生産と締め縄用の青刈り稲が生産されているとともに、丘陵部では茶栽培が盛んである。</p> <p>しかし、本地区の茶園は他地区に比べて規模拡大や生産基盤の拡充が進んでいないことや、その他煎茶の価格低下、市場流通体系の変化による早場地域の優先順位低下により、担い手の世代交代が進まず、茶園の荒廃化が進んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○市民の地場産業への関心向上 ○多様な茶生産による6次産業化 	<p>体験型農業・紅茶づくりワークショップの開催：3～4回/年</p> <p>紅茶ラボの設置・運営</p> <p>紅茶製造研究および紅茶製造・販売茶新商品の開発・販売：1～2商品/年</p> <p>緑茶工場運営継続に向けた検討</p>	H31.3
四日市	四日市市	よっかいちロクジカ仕事人	四日市の6次産業化商品をPR～四日市産農産物の消費拡大を目指して～	<p>西部は鈴鹿山系、東部は伊勢湾に面し、比較的温暖な地域である。農業の中心は東部の平坦地であり、水稻を始め、麦や大豆、施設園芸や露地野菜の栽培が展開されている。西部は茶や花きの産地となる他、畜産も行われている。近年は農産物の高付加価値化を図り、自ら生産・加工・販売を実施する6次産業化に取り組む農家が増加している。</p> <p>農家の高齢化や後継者不足が深刻化するなか、就農者の確保と、地域の商工業における農業の認知度が低いことに対して、認知度向上および消費拡大につながる取組が求められている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○各種イベント・マルシェへの出店による四日市産農産物、加工品のPR ○市民を対象とした食育講座の開催 ○市内で6次産業化に取り組む農家への支援 	<p>イベントやマルシェへの出店：3回以上/年</p> <p>四日市産の農産物および加工品の情報発信</p> <p>市民を対象とした食育講座の開催：1回/年</p> <p>6次産業化についての勉強会開催</p>	R2.2

地域活性化プラン一覧（令和元年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期間
四日市	鈴鹿市	三日市酒づくり委員会	地域資源を活用した地酒「天晴れ！みっかいち」づくりによる地域の活性化	当地域では、肥沃な平野部を中心に水田農業や野菜栽培が行われている。また、丘陵・台地部では、サツキやツツジ等の植木類や、「伊勢茶ブランド」として全国に知られている茶の栽培が盛んである。 近年は地域外からの移住者が増加する一方で、地域住民が農業に携わる機会が減少しており、地域の持つ農業風景や農業文化が失われつつある。	○酒米生産への取組 ○地域の加工業者と連携した地酒づくり ○地酒の地域特産品化、生産・販売を通じた地域交流の推進	酒造好適米「神の穂」の栽培 酒米栽培技術の向上、高品質・高収量化 地域加工業者による生産した酒米を用いた地酒の生産 地酒の販路拡大 地酒の生産・販売を通じた地域交流	R2.3
四日市	鈴鹿市	定五郎物語「みえのゆめ」生産者グループ	定五郎物語「みえのゆめ」品質向上プラン	米・麦・大豆を中心とした二年三作のブロックローテーション体系が地域において確立され、地域ぐるみで効率的な水田活用が行われている。 農業の経営拡大に意欲的な中核的担い手が育つ一方で、農家の高齢化や土地開発による農地面積の減少などの問題が生じている。	○地酒生産に用いる米「みえのゆめ」の栽培技術の向上 ○地酒の地域内でのイベント・飲食店への提供 ○地域住民への豊かな地域資源の再認識に係る取組 ○地酒の流通・販売を通じた地域の認知度向上と集客交流	「みえのゆめ」栽培技術の向上、高品質・高収量化 新規栽培品種の検討 地酒の販路拡大 地域の認知度向上	R2.3
四日市	菟野町	菟野町みつばちプロジェクト	菟野町みつばちプロジェクト	鈴鹿山脈の麓に位置する自然豊かな環境に恵まれた地域で、農用地面積の90%が基盤整備済みであり、水田では古くから、稲・麦・大豆のブロックローテーションが確立されている。また、町内には豊かな森林が広がり、地域ぐるみで森林環境の保全に取り組んでいる。 水田を中心とした農業の盛んな地域であるが、都市化の進展などに伴い、農用地の減少が進んでいることのほか、近年では獣害の深刻化、担い手の経営拡大に応じた労働力不足への対応が課題となっている。	○ミツバチの飼育および蜜源植物の保全などミツバチの住みよい環境づくり ○ミツバチの生態や採蜜の見学機会の提供 ○活動を通じた地域自然環境の再認識と保全活動の実施 ○専門家の指導による蜂群の維持・拡大 ○ハチミツ生産量の増加、地域特産品化の推進	ハチミツ生産量の増加：100kg/年 高品質ハチミツの提供：糖度80度以上	R2.1
四日市	龜山市	関南部地区まちづくり協議会 久我自治会	久我集落獣害対策プラン	集落は中山間地域に存在し、農地の過半を水田が占め、その大半が小区画の未整備田である。地域住民や農家間のまとまりはよく、地域ぐるみで農地保全などの活動が実施されている。 農耕地における防護柵の設置など獣害対策を実施しているが、獣類の増殖が進行しており、農作物への被害拡大に歯止めがかからない状況である。	○狩猟免許取得者の育成 ○捕獲用具による獣類の捕獲 ○獣害対策の後継者育成 ○捕獲した獣類の利活用への検討	集落内営農面積の維持 獣類捕獲の後継者育成：1～2名 獣肉を活用したジビエ料理の創作：5メニュー	R2.3

地域活性化プラン一覧（令和元年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期間
四日市	亀山市	辺法寺六〇会	「穴虫の郷（さと）」を活用した三世代交流	安楽川の清流に沿って集落が形成されており、自然豊かな郷土である。本地域の耕作放棄地となっていた竹藪を当該団体が整地活動を行い、「穴虫の郷」として公園化する事で、景観維持とともに地域住民の交流の場として活用している。	<ul style="list-style-type: none"> ○「穴虫の郷」の整備・管理 ○「穴虫の郷」におけるイベント行事の実施 ○地域内外の住民の交流促進 	「穴虫の郷」の管理 紫陽花・花蓮などの花木栽培管理 田植え体験・祭りの開催など住民交流事業の実施：3回以上/年 先進地視察・交流	R2.3
四日市	亀山市	鹿伏兎山脈自然薯（零余子）の会	「自然薯」栽培を通じて地域内外との交流活動を実施	当該地域は山間の小盆地に位置し、水田作を中心とした農業が営まれている。中山間地域に位置するため、水田の多くが小区画であり、また、野生獣による被害の増加とともに、耕作放棄農地が増加してきている。	<ul style="list-style-type: none"> ○自然薯の生産販売を通じた消費者との交流活動 ○地域の小学校児童へ自然薯・サツマイモ栽培学習や農業体験の場を提供 	自然薯作付面積・本数の維持 作業時間の短縮 消費者との交流活動 地域小学校児童への農業体験の提供 団体の活動継続に向けた検討	R元.12
津	津市	株式会社 JAアグリサポートだいち	株式会社JAアグリサポートだいちの活性化プラン	本地域では、水稻や小麦、大豆の土地利用型大規模農家・法人・集落営農組織が中心となっているが、それら農家・法人による水田を高度利用したキャベツやブロッコリー、白菜、なばな等の露地野菜栽培も盛んに行われている。中でも、冬・春キャベツは野菜指定産地、ブロッコリーは特別野菜産地の指定を受けている。その一方で、高齢化による農業従事者の減少や獣害等による作付け意欲の減退を原因とした耕作放棄地の増加、農産物の価格低迷が問題となっている。	<ul style="list-style-type: none"> ○地域ブランドの産地維持 ○J-GAP認証農場の継続・拡大 ○新規就農者の受入および研修会の開催 ○経営の健全化 	秋冬・春キャベツの定植・反収確保：4t 反収向上検討会の開催 試験品目の作付け J-GAP認証維持審査 就農サポートリーダー登録による研修生の受入 経営の健全化に向けたサポート	H31.4
津	津市	津市養豚クラスター協議会	津市養豚クラスター協議会活性化プラン	当地域は三重県においても主要な養豚地帯が広がり、畜産に関しては、松阪牛生産地域の一角をなすとともに、養豚、採卵鶏の生産も盛んである。農業者の高齢化や担い手の不足、獣害の発生等により、生産意欲の減退と農地の荒廃が進んでいる。また、農産物価格低迷により、農業経営の維持が困難となる農業者も生じている。	<ul style="list-style-type: none"> ○飼養規模の拡大および飼養管理の改善による肉豚出荷頭数の増加と生産供給の安定化 ○消費者の需要に合った生産物の供給体制の確立 ○生産コスト低減のための自給飼料の活用 ○豚糞堆肥の供給等地域内農産物の生産性向上を旨とした耕畜連携体制の確立 ○担い手、新規就農者の育成 ○女性活躍の推進 	肉豚の増頭：豚舎新設 直売所の新設 JGAP認証取得の検討 飼料用米利用による生産コスト低減 豚糞堆肥の定期的散布 学生実習生の受入、女性雇用の拡大	R2.1

地域活性化プラン一覧（令和元年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期間
津	津市	白山町採種部会	白山町採種部会地域活性化プラン（発展プラン）	<p>耕地の多くを水田が占める地域で、県内に流通する水稲の種子生産も盛んな地域である。コシヒカリのほか、三重県の育成品種である三重23号の採種が行われている。</p> <p>地域の農業就業人口における高齢者の割合は県平均より高く、農業の担い手不足が続くほか、水稲の採種農家においても一人当たりの管理面積が拡大し、きめ細かな圃場管理が困難となっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○水稲種子の生産量および品質の安定化 ○共通の栽培こよみ作成による部会員の意思統一 ○部会活動の充実 ○栽培技術の向上 ○省力化の検討 	<p>圃場巡回：毎年4月～9月 栽培講習会の実施：圃場巡回時開催 視察研修会：1回/年 次年度に向けた反省会：1回/年 水管理技術の精密化による除草剤効果の最大化 乗用型水田除草機の導入による除草作業の省力化 ドローンセンシングによる雑草発生状況の把握 除草体系の検証 アシストスーツによる除草作業の負担軽減</p>	発展 R2.1
津	津市	久居キャベツ・はくさい部会	久居キャベツ・はくさい部会の地域活性化プラン	<p>地域には山林が多いため耕地は少ないが、温暖な気候もあり、春キャベツ・冬キャベツは国の野菜指定産地となっているなど、県内でも有数の野菜産地である。</p> <p>一方で農業従事者の高齢化による減少で、作付面積・出荷数量が減少するほか、近年は気象の変化も激しく、生産量が安定しにくくなっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○良質で安全・安心なキャベツ生産への取組 ○キャベツ生育状況会議、視察研修や栽培研修会の開催 ○出荷販売会議、キャベツ出荷目揃え会の開催 ○新品種、新資材、省力化技術などの導入検討 ○効率的な防除体系の確立 ○土壌診断の活用による適正施肥設計および牛ふん堆肥の施用による土づくり ○有利販売に関する検討 	<p>部会出荷量の維持拡大：1,300t/年 新品種導入試験・検証：1点以上/年 GAPチェックシートの管理徹底 スマート農業、機械化の拡大検討</p>	発展 R2.2
津	津市	Landing in Hakusan	農泊を核とした人と人との交流促進による地域活性化	<p>地域の農地の大半が水田であり、水稲栽培が農業の中心となっており、良質米である一志米の中心産地である。</p> <p>農業従事者に限らず地域の総人口が減少傾向にあり、農業を含む各産業の衰退や地域の活力の低下が懸念されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な地域資源を活かした農泊の推進による地域への人の呼び込み ○地域内外の交流の創出 ○白山町の魅力を発信するポータルサイトづくり ○地域の観光マップ、体験ガイドブック等の制作 ○農山村起業家の誘致 	<p>ポータルサイトの開設：サイトへのアクセス数1000回以上 宿泊を伴う農業体験ツアーの実施：参加者数50人 白山町のマップ制作・配布：3000部 「インターナショナルフェスティバル in HAKUSAN」の開催：参加者数300人</p>	R2.1
津	津市	榊原の地域振興を考える会	温泉を核とする農産物、自然、歴史を活用した榊原地域の活性化	<p>広大な農地と山林を活かした農林業のほか、榊原温泉を活かした温泉観光地としての観光業が主な産業である。農地の大半は水田であり、コシヒカリやキヌヒカリなどの水稲栽培が地域農業の中心である。</p> <p>鳥獣被害の増加により農林業への意欲が減退し、遊休農地や放置山林が増加する状況のほか、温泉地としても衰退しつつある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○農業、自然、文化などの地域資源を活用した魅力ある地域づくり ○地域への交流人口増加による地域の活性化 ○地域農作物の特産品化 	<p>榊原米のブランド化 温泉水を活用した水稲育苗の検証 遊休農地を利用した観光農園の運営 田舎レストランの併設 地域イベントの確立と開催 榊原地域の知名度向上</p>	R2.3

地域活性化プラン一覧（令和元年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期間
津	津市	太郎生道里夢	太郎生道里夢農業農村活性化プラン	当該地域は市中心部から遠くに位置し、自然資源・文化財が豊かである。森林セラピー基地に選定されており、地域内にコースが設定されているほか、地域の名を冠した「美杉茶」を販売するなど、地域資源が活用されている。 基幹産業であった農林業が高齢化や担い手不足、獣害被害の拡大によって耕作地や森林の荒廃が進みつつある。一方で、豊かな自然にあこがれ、地域外から移住者が訪れるなどの動きがある。	○朝市の開催、街道の整備、体験教室の実施などによる都市住民との交流促進 ○フジバカマの栽培によるアサギマダラの誘引 ○地域資源を利用した集客交流の促進	フジバカマ畑の整備と栽植数の増加活動を通じた地域間連携の推進 キジョランの栽培 フジバカマを活用した新商品開発	発展 R2.2
津	津市	一般社団法人一志パラサポート協会	農福連携・6次産業化の更なる発展と、地域づくり組織等との連携活動による地域の活性化	当協会は、農福連携を活動の中心においた障がい者就労継続支援作業所であり、地区内の農園と協働で作業所運営を行っている。 作業内容としては、イチジクハウスおよび田畑で生産・生育した野草を活用した健康茶の加工・販売や、露地野菜の生産、新たな果樹・野菜の試作等が挙げられる。 今後は、作業所通所者の増加を見込み、新たに賃借した空き地を野草茶の加工場および農産物の出荷調整場として整備するとともに、障がい者用トイレの設置を検討している。	○新たな拠点整備による6次産業化・農業生産の経営力向上 ○耕作放棄地の再生・活用を目指した野菜・芋類・果樹等の生産品目・面積の増加 ○地域づくり組織と連携した魅力ある地域づくり	野菜茶の加工・販売の増加 ：スギナ栽培面積16a、生産量（乾燥）100kg、販売量（乾燥）78.3kg、販売量（玄米）52.2kg 露地野菜の生産・加工 ：栽培面積なばな15a、赤ピーツの商品化 果樹の生産・加工 ：イチジク生産受託の増加、アーモンド・ヘーゼルナッツの試験栽培 耕作放棄地の再生活用人材育成、PDCAサイクルの体制づくり	発展 R元.10
松阪	松阪市	松阪エゴマ倶楽部	エゴマを通じた中山間地農業活性化への取り組み	松阪市の西部山間地域にあり、土地の9割以上を山林が占める。農業は水稲や茶の栽培が中心で、松阪牛や原木シイタケ、山菜などの生産もされている。 地域内の農地は狭小であり、農業従事者の高齢化が進むほか、獣害被害による生産意欲の低下により、耕作放棄地が増加している。	○遊休農地の再生と活用 ○エゴマの新規栽培量の確保と栽培面積の拡大 ○エゴマの地域特産品化による農業所得の向上 ○地域内におけるエゴマの食材としての定着推進	エゴマ栽培研修会の開催：2回/年 現地圃場巡回：3回/年 新技術等実証圃の設置：1か所 栽培者間の情報交換会・反省会の開催：1回/年 エゴマに関する情報発信：2回/年	R2.2
松阪	松阪市	機殿営農組合	営農組合を中心とした集落営農システムの充実強化	松阪市の最東部に位置し、整備された農地がひろがる水田農業を中心とした地域である。麦のブロックローテーションが地域に定着してきている。 農業従事者の高齢化に加え、若者の農業離れもあり、農業をやめる農家が増加してきている。	○水田農業の低コスト化 ○担い手の育成 ○地域特産物の振興 ○農作業受委託、利用権設定の取組推進 ○麦のブロックローテーション	運営委員会・オペレーター会議の開催：5回/年 圃場利用調整町会議：1回/年 研修会・講演会への参加：1回/年	R2.2

地域活性化プラン一覧（令和元年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期間
松阪	松阪市	機殿下営農組合	組合を核とした集落営農システムの確立	松阪市の最東部に位置し、整備された農地がひろがる、水田農業を中心とした地域である。水稲に限らず、小麦、大豆の栽培を中心とした水田の高度利用を進めている。 農業従事者の高齢化に加え、若者の農業離れもあり、農業をやめる農家が増加してきている。	<ul style="list-style-type: none"> ○水田農業の低コスト化 ○地域の土地利用の推進 ○水田作業の受委託による作業の効率化 ○地域特産物の検討 ○担い手の育成 	運営委員会・オペレーター会議の開催：8回/年 圃場利用調整町別会議：1回/年 研修会・講演会への参加：1回/年	R2.2
松阪	松阪市	朝見営農組合	営農組合を核とした朝見上地区の地域農業を守る仕組みづくりの構築	河川に面した肥沃な土地であり、農地のほとんどを水田が占める。米作りを中心としているが、小麦および大豆栽培を導入した水田の高度利用が推進されている。 高齢化などに起因し、営農活動が継続できない農家が増加しており、圃場利用調整などによって地域の農業を担う農家への農地の集積や集約が必要とされている。	<ul style="list-style-type: none"> ○稲作、小麦作、大豆作等の水田圃場の高度利用の推進 ○オペレーターへの圃場利用調整 ○土壌診断・土壌改良等の研修会への参加 	運営委員会・オペレーター会議の開催：2回/年 圃場利用調整にかかる町別会議：2回/年 研修会・講演会への参加：1回/年 高収益作物の導入検討、試験栽培の実施	R2.3
松阪	松阪市	漕代営農組合	営農組合を核とした漕代地区の地域農業の継続的発展と活性化	松阪市の東部に位置し、榎田川下流の氾濫原が広がる、水田農業が盛んな地域である。集落を単位としたブロックローテーションが生まれ、水稲、小麦、大豆が農業生産の中心となっている。 農業従事者の高齢化が進み、離農する者が増加する中で、地域の営農活動継続のため、農地や農作業の担い手への集積が求められている。	<ul style="list-style-type: none"> ○農地利用権設定と作業受委託の調整・推進 ○土壌改良材の散布による土づくりの推進 ○ブロックローテーションの維持 ○既存作物の生産振興、新たな地域特産物の検討 ○担い手への農地集積の推進 ○収穫祭などのイベント開催 ○担い手の選定と育成 	圃場利用調整にかかる役員会・オペレーター会議の開催：15回/年 研修会・講演会への参加：1回/年	R2.3
松阪	松阪市	伊勢寺営農組合	営農組合を核とした地域農業の継続的発展	松阪市西部の丘陵地に位置する地域であり、豊富な農業用水池を擁する。水田を中心として、なばな、モロヘイヤなどの畑や果樹園がある。 農業従事者の高齢化が進み、若者の農業離れもあり離農する農家が増加している。	<ul style="list-style-type: none"> ○伊勢寺地区営農ビジョンに基づいた、ブロックローテーションによる水田営農システムの維持と麦大豆の計画生産 ○営農組合が農作業受委託の調整機能を担うことによる効率的な営農体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ○水田農業の低コスト化 ○水田の高度利用 ○地域特産物の振興 ○オペレーターの育成支援 ○転作のブロック化の推進 本部運営委員会：年3回 研修会・講演会への参加：年1回	R2.3

地域活性化プラン一覧（令和元年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期間
松阪	松阪市	道の駅「茶倉駅」	直売所を通じた地域の農業と道の駅の活性化	山間部に位置する地域で、林業・製材業のほか茶栽培・製茶業が盛んであり、県内有数の茶産地となっている。 茶以外の農作物に関しては、生産効率が上がらないことから、生産規模が県平均より小規模となっており、生産意欲の減退から耕作放棄地としてしまうなど問題が生じている。	○道の駅の野菜直売所を活用した地元野菜の地産地消および観光客への販売促進 ○道の駅の地元野菜の利用 ○地元野菜の販路充実による「小規模でも持続可能な農業」の実現への貢献	茶倉朝市の開催：12回/年 出品者特別勉強会の開催：4回/年 先進地視察研修会の開催：1回/年 厨房での直売所野菜の積極的な利用 月刊茶倉くらぶ通信の配信：12回/年	R元. 11
松阪	大台町	長ヶ営農組合さとこい	営農組合を核とした長ヶ集落の地域農業の活性化	三重県の中南西部にある大台町の東部に位置し、宮川沿いの左岸に農地が広がる集落。 小区画で条件不利な水田において、区画整理や農業用水路のパイプライン化を進めることで、条件の整備が進みつつある。 近年、農業者の高齢化や担い手不足が顕著であり、獣害対策への労力やコスト増加もあり、農地の維持が困難になっている。 営農組合は任意組織であることから、利用権設定ができないため農地の利用集積が課題である。	○営農組合作業部会での水稻栽培の基幹作業に係る受託 ○地域の他団体と連携した獣害対策や環境維持	鳥獣被害対策の集落点検マップを作成 出合作業により農業環境整備を実施 新規・特産作物の導入 集落営農研修会への参加 営農組合の法人化検討	R2. 3
松阪	多気町	兄国営農組合	営農組合を核とした地域農業の継続的発展	水田農業を中心とする地域で、水稻のほか、小麦、大豆の栽培を加えた、集落単位でのブロックローテーションが行われている。 農業をやめる農家が地域で増加しており、営農活動継続のため、営農組合を中心とした担い手農家への作業受委託調整や合意形成による効率的な農業を行う体制づくりが必要とされている。	○圃場利用権設定および担い手農家への作業受委託の調整 ○土壌改良材散布による土づくりの推進 ○ブロックローテーションの維持 ○野菜等の新たな地域特産作物の検討	役員会・オペレーター会議の開催 研修会・講演会への参加：3回/年	R2. 3
松阪	多気町	多気町集落営農組織連絡協議会	集落営農組合同士で助け合い、多気町における持続可能な水田農業を目指して	三重県のほぼ中央、伊勢平野の南端部に位置し、櫛田川と宮川流域にある耕地において米や野菜の生産が盛んである。 これまで集落営農の組織化が進み、多気町集落営農組織連絡協議会には10組織が参加しており、うち5組織が法人化している。 集落営農組織に委託される農地や農作業は年々増加しているが、組合員の高齢化が進み後継者不足が問題となっている。	○水稻、小麦、大豆の単収・品質の向上による収益性の向上 ○集落営農組織同士が協力した農作業の実施および組合の広域化の検討	情報交換会の開催：年1回 水稻における新品種の導入検討 小麦と大豆の基本技術の徹底 新技術導入検討 農業機械の共同利用 広域化の検討	R2. 3

地域活性化プラン一覧（令和元年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期間
伊勢	鳥羽市	株式会社 ファーム海女乃島	GAPの取組による安全・安心な農産物でみんなが元気！	本地域では、水稻を主として、農産物の生産が行われている。漁業が盛んであるため、半農半漁の生産者が多いことも特徴である。 また、平地が少なく、優良な農地に限られているため、従来の市場出荷型の産地形成が困難であり、近年は農産物に対する獣害や、耕作放棄地も増えており、対策に取り組んでいる。	○限られた農地での周年で安定的な農産物供給に向けた気象変動や連作障害によるリスクの少ない水耕栽培の実施 ○GAPに取り組むことによる就労継続型支援A型事業所としての安全安心な野菜の栽培	栽培管理の反省会の実施 販売量の増加	R2. 2
伊勢	玉城町	玉城町水田農業 担い手土づくりの会	持続可能な水田農業の確立を目指して	本地域では、水稻の他、豚・肉用牛等の畜産、柿等の果樹、露地野菜、いちご等の施設野菜、花きを生産している。 水稻については、農家の高齢化・減少に伴い、年々担い手への受託面積が増えており、条件の悪いほ場も受けざるをえない状況になっている。 また、水稻以外に小麦や露地野菜も栽培しているが、水稻単作では問題とならなかった地力の低下による生育不良や土壌病害が発生し、品質・収量の低下が深刻な問題となっている。	○農作物の品質・収量の安定化に向けた土づくり	土壌調査による土づくり 小麦の反収向上・維持：5俵以上/10a キャベツの反収向上・維持：4t/10a 情報交換会・勉強会の開催	R元. 8
伊勢	南伊勢町	河内の農地を守る会	南伊勢町産小麦で、小麦の魅力と南伊勢町河内の魅力発信！	南伊勢町は熊野灘の黒潮の影響を受け、温暖で降雪はほとんどみられない。 平坦地では水稻、傾斜地にかんきつが栽培されているが、年々荒廃が進んでおり、獣害被害もあって栽培現場は厳しい状況が続いている。	○栽培に必要な水の確保や獣害対策等個人では難しい問題に関する、地元の理解度向上に向けた話し合い ○耕作放棄地の解消と農地保全のための集落機能の維持 ○農・食を身近なものとして認識し、将来の就農に繋がるような学校行事での農作業体験等の実施	話し合いの場の設定：年2回以上 施肥試験検討会と反省会、現地確認：計3回 小麦の反収向上と維持：4俵/10a 品質の確認方法の検討会：2回 食育体験の実施：年1回	R2. 3
伊勢	鳥羽市 志摩市	JA伊勢 鳥羽志摩特別栽培米コシヒカリ部会	「伊勢農業協同組合鳥羽志摩特別栽培米コシヒカリ部会」による『珠光』の生産安定	鳥羽市および志摩市は、両市全体が伊勢志摩国立公園に指定された風光明媚な観光名所であり、多くの観光客が訪れている。 また、両市では温暖な気候を生かして、イチゴ、早場米、ストックの生産が展開されており、特に特別栽培米コシヒカリ「珠光」は「志摩ブランド」に認定されるなど、需要が高まっている。しかし、生産者の高齢化や、獣害による被害が拡大しており、品質・収量の確保に課題が残る。	○特別栽培米コシヒカリ「珠光」に関する取組の維持・拡大による水田農業の担い手の確保・育成および地域水田農業の活性化	現地巡回：1回 研修会：2回 生産量の安定確保：2300俵 土壌診断の実施 結果検討会の実施 モデル地区の設置	発展 R1. 12

地域活性化プラン一覧（令和元年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期間
伊勢	伊勢市 志摩市	JA伊勢 バラ部 会	令和の時代も愛され選ばれつづける日本一のバラ産地をめざして	伊勢市は冬季も十分な日照時間が確保される温暖な気候にあり、清流の宮川が流れる農業生産に恵まれた環境で、切花栽培が古くから盛んに行われている。 中でも伊勢のバラは品質が高く、安定した量も確保できることから市場でも高い評価を得ているが、小売段階では産地表示がないものも多く、認知度は高くない。 また、農業従事者の高齢化にともない、農業者数は減少傾向にあり、次代を担う若い農業従事者の確保、育成が不可欠という課題が残る。	○次代を担う青年農業者の確保・育成 ○生産者・JA・普及センターとの協力による市場のニーズを踏まえた販売戦略の構築 ○花育活動の充実	販売金額の向上：20%以上 視察及び研修会の開催：年2回以上 市場や実需者との交流会の実施：年2回以上 花育活動の実施：年3回以上	R2. 3
伊勢	伊勢市 玉城町	JA伊勢 大豆生 産者グループ	JA伊勢大豆生産者グループ「生産安定による大豆の産地づくり」	伊勢市と玉城町は県の東南部に位置し、平坦な地形で温暖な気候であり、宮川用水による灌漑用水の確保により水稲を中心に施設園芸、畜産、果樹など農業が盛んに営まれている。 しかしながら、近年は異常気象や防除困難な帰化雑草の侵入などにより小麦後栽培品目の大豆の生産が不安定となっている。 加えて、水田農業経営体の経営面積は増加の一途で、持続するには低コスト化、省力化の取組が必要。	○小麦後栽培品目である大豆の定着 ○定着後、面積拡大に向けた関係機関が一体となった栽培技術の確立 ○低コスト化と省力化への積極的な取組 ○生産力の高い水田の維持および持続性の高い産地を目標とした取組	栽培技術検討会、反省会の開催 目標値：大豆の反収150kg 大豆栽培の難易度が分かる地図作成	R2. 2
伊賀	伊賀市	上野南採種部会	上野南採種部会 地域活性化プラン	上野南地区は布引山系や大和高原などに囲まれた盆地に水田が広がっている。県内随一の水稲採種生産組織があり、JAや米麦協会、県関係機関と連携し、長年にわたり組織的な採種事業活動を継続してきた。 だが、農業人口のうち65歳以上が占める割合は74%と県平均と比較しても高く、担い手が不足している。 また、近年はシカによる獣害が増加している。	○生産体制の維持、生産の安定化 ○採種事業後継者の確保および育成 ○関係機関と部会員による栽培技術の相互情報共有 ○漏生籾対策や病害虫防除対策となる実証ほの設置	水稲種子契約量の達成：100% 育苗、生育状況、病害状況の巡回調査 栽培講習会の実施 出穂期、黄熟期のほ場審査	R2. 2
伊賀	伊賀市	三軒家農業生産 組合	三軒家地域農業の維持・発展に向けた取組推進プラン	伊賀地域は、四方を山々に囲まれた盆地で、淀川水系の源流域にあたる。気候は昼夜の気温格差が大きく、寒暖差が激しい内陸気候で県内でも比較的降水量が少ない地域。 また、当地区の土壌は重粘土質で古くから良質な米を生産しており、主力品種はコシヒカリ。 その一方で麦、大豆等の作物には不適な地域であり、水稲のみ作付けが行われてきた。近年、地権者の高齢化が進んでいるが、助け合いで耕作が行われている。	○営農できなくなった農地の維持 ○地域における住環境の維持および交流の活性化に向けた営農組合の活動による地域の活性化	経営規模に応じた作業機械の導入 米の販売方法の検討 経営規模に応じた作業体制の確立 後継者の確保	R2. 2

地域活性化プラン一覧（令和元年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期間
伊賀	伊賀市	農事組合法人大東営農組合	「大東の農地は大東で守ろう」大東区将来展望活性化プラン	伊賀地域は四方が山に囲まれた盆地で昼夜の気温差が大きく、比較的降水量は少ない。 また、農家の高齢化に伴い、管理農地が増える一方で農業経験が豊富な管理者も不足しており、草刈りなどの日常作業の負担を減らすための研修会を実施している。 加えて、圃場での湧水等により、大型農機の作業にも支障が出ており、営農組合へ圃場委託しても農地の借地料が高く、今後国の交付金が減少すれば栽培継続の可否についても検討する必要がある。	○若年層の重機オペレーター、後継者の確保 ○水稲圃場の水管理に関する研修会を広く実施 ○営農女性グループの組織づくり ○耕作に支障をきたしている圃場の補修や対策	雑草対策勉強会の実施：1回以上/年 小麦、玉ねぎの反収増加 新品目の導入：1品目以上	R2. 2
伊賀	伊賀市	西喜農産株式会社	米・麦・大豆生産と地域農産物を活用した加工商品で地域活性化を	伊賀地域は三重県の北西部を占め、淀川源流部にあたり、関西圏と結びつきが強い地域。寒暖差のある気候や土壌条件に恵まれた伊賀盆地で生産される伊賀米コシヒカリは県内外で高く評価される。 また、生産者が高齢化し、地域で数名の担い手が草刈隊を結成し、地域の農地を守っているが、草刈隊の担い手も減少している状態。加えて、シカ、サル、イノシシ、アライグマ等による被害もあり、農家の生産意欲の低下を招いている。	○担い手が地域の受け皿となった農地の保全 ○機械の大型化および施設整備の推進による生産性の向上 ○付加価値をつけた農産加工品の開発および地域の直売所等での販売	米、麦、大豆生産の規模拡大：18.5ha 地域と連携した加工品の開発：3品目	R2. 3
伊賀	名張市	長坂地域資源保全プロジェクト	農業体験場所の提供という農地の新しい活用や地域資源保全による「地域の農地は地域で守る」取組	赤目地域は宇陀川と滝川流域を源流とする水田地域である。観光地の赤目四十八滝に向かう道筋の山間部には、赤目町長坂地区が広がっている。 また、集落道路やほ場整備、鳥獣害防止の侵入防止柵設置、ため池の改修工事などハード事業にも取り組む。 耕作放棄地は存在しないが、保全管理だけ行う農地が増え、地域資源の保全が困難となっており、農業従事者の高齢化が進む。農業従事者の確保や獣害対策、草刈りの労力確保が課題となっている。	○保全が困難となった農地の新規活用 ○キャンプ場との連携による作付けや収穫等の農業体験、作付場所の提供、技術の伝承	農業体験の集客：9人→100人/年 キャンプ来場客数：3000→5000人/年	R2. 3
尾鷲	紀北町	紀北町ニンニク栽培・加工グループ	紀北町における水田転換ニンニク栽培による農業の活性化	紀北町は三重県南部に位置し、平野部が少なく殆どが森林かつ多雨地帯であるが、赤羽川及び船津川、銚子川の各流域で水田や畑が拓かれ、樹園地も点在する。 また、近年では紀北町の水田フル活用ビジョンにおいて、産地交付金の対象品目にニンニクを設定するなど、ニンニク栽培を推進している。 課題として、紀北町の農業人口は65歳以上が75.8%と非常に高く、担い手不足への対応が急務となっている他、農産物価格の低迷対策がある。	○担い手の確保・育成 ○土壌改善によるニンニクの栽培面積の拡大と出荷量の増加 ○冷凍によるニンニクの長期保存方法の確立と集中出荷から周年出荷への移行に向けた調整	ニンニク栽培面積拡大：1.5ha→3ha ニンニク出荷量増加：4t→12t（1t×12ヶ月）	R2. 3

地域活性化プラン一覧（令和元年度策定分）

事務所名	市町名	農村地域団体名	地域活性化プランの名称等	地域の現状や課題	地域活性化プランの概要・方向性	目標項目・数値	プラン策定期間
熊野	熊野市	熊野・三ツ口山甘茶栽培研究会	五郷・飛鳥地区での地域資源「甘茶」を生かした地域活性化プラン	五郷町及び飛鳥地区は、林野が90%以上を占める山間地域にあり、標高が高いため、温暖多雨な沿岸部に比べて気温が低いのが特徴である。 地区の農業は水稲を中心に特産の高菜、茶などが栽培されているが、面積規模は小さい。 また、若手労働力の流出による高齢化が他地区より進んでおり、山林での野生獣による農作物被害も深刻であるため、耕作放棄地が増加し続けている。	○「甘茶」の栽培技術の確立 ○「甘茶」の製造加工技術の確立・商品開発 ○「甘茶」の生産・販売の組織化と若者の雇用機会の生み出しによる地区の活性化	甘茶栽培の従事者：5名→18名 新商品の開発・販売：0品目→5品目	R1.5
熊野	紀宝町	農事組合法人飛雪の滝百姓塾	浅里地区（農業振興と地域発展）	浅里地区は県の最南端に位置し、「にほんの里100選」に選ばれたこともある美しい田園景観が特徴である。 地域では生産者や農地所有者が設立した「飛雪の滝百姓塾」が、コンバインや乾燥調製施設の導入、「なれずし」工房の設置などを行っており、これらの取組の発展を目指す。 一方で、紀伊半島を襲った大水害や農業者の高齢化によって、作付けの規模は縮小し、シカ・イノシシ等の獣害も防止柵設置で一時に比べ減少したが、依然として続いている。	○獣害対策の実施 ○ブランド米「飛雪米」の品質、反収向上 ○利用可能な農地の維持 ○農業体験を通じた都市部との交流、担い手確保の検討 ○6次産業化と商品のPR活動による地域活性化 ○景観の維持に向けたレンゲやコスモス等の作付け	獣害被害額：116万円→90万円 飛雪米の反収向上：390kg→420kg 岡崎鋼機(株)とのCSR活動：年2回維持 「飛雪の滝」直売所販売額向上 共同機械、施設の効率的な利用	R2.3

地域活性化プランに関する問合せ先

問合せ先	電話番号
三重県 農林水産部 担い手支援課	059-224-2016

地域機関の窓口	電話番号
桑名農政事務所 農政室 地域農政課	0594-24-7421
四日市農林事務所 農政室 地域農政課	059-352-0629
津農林水産事務所 農政室 地域農政課	059-223-5102
松阪農林事務所 農政室 地域農政課	0598-50-0515
伊勢農林水産事務所 農政室 地域農政課	0596-27-5164
伊賀農林事務所 農政室 地域農政課	0595-24-8108
尾鷲農林水産事務所 農政・農村基盤室 地域農政課	0597-23-3498
熊野農林事務所 農政室 地域農政課	0597-89-6122